

第三者評価結果

<児童養護施設>

施設名：豊橋若草育成園

令和元年度

福祉サービス第三者評価機関
株式会社 スニックス

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

株式会社スニックス

②評価調査者研修番号

S18048
SK18131
地福第2250-61号

③施設名等

名称	豊橋若草育成園
施設長氏名	林 義典
定員	50名
所在地(都道府県)	愛知県
所在地(市町村以下)	豊橋市高師町字北原1番地104
T E L	0532-62-0010
U R L	http://tf-jigyokai.org/wakakusa/
【施設の概要】	
開設年月日	1965年4月1日
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人 豊橋市福祉事業会
職員数 常勤職員	26名
職員数 非常勤職員	8名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数	2名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数	7名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称（エ）	調理師
上記有資格職員の人数	4名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数	名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数	名
施設設備の概要（ア）居室数	小規模グループケア棟4棟・管理棟・南館・グリーンホーム
施設設備の概要（イ）設備等	車庫自転車置き場
施設設備の概要（ウ）	
施設設備の概要（エ）	

④理念・基本方針

★理念

【法人】
「地域の中でいきいきと生活するために」

【施設】

「子どもの最善の利益のために」
・子どもの最善の利益を最優先に、家庭的で継続性のある環境のもと心身の健全発達を促し、一人ひとりの人権を尊重した上で専門性を持った支援を行う。

★基本方針

【法人】
(1)社会福祉の環境変化や地域の福祉ニーズに対応した、活力ある法人経営
(2)利用者本位の良質な福祉サービスの提供
(3)社会福祉法人の特色、長所を十分に発揮し、健全かつ透明性の高い持続的な経営

【施設】

「正しく、明るく、たくましく」
(1)措置児童の育成については、児童相談センターとの連絡を密にとり、集団の中でも個を重視した育成に視点を置き、家庭復帰又は自立支援を目指す。
(2)一時保護については、児童相談センターの依頼を積極的に受け、子どもたちのセーフティネットとしての役割を果たす。
(3)ショートステイ、トワイライストテイについても、地域における子育て支援機能として近隣の市町村からの委託を受け、子どもに則した支援を行う。

⑤施設の特徴的な取組

・平成28年度より、4つの敷地内小規模グループケアと2つの中舎で60人の児童を養育してきたが、令和元年度より定員を50人とし、中舎を1つにまとめた。近い将来、分園型小規模グループケアを1か所開始し、地域分散化の第一歩とした。また、園からの大学、短期大学、専門学校等への進学も積極的に推奨していきたい。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019年6月1日
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020年2月23日
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度

⑦総評

【総評】

施設は、小規模ユニット化になり3年が経過し、各ユニットごとの子どもたちは生活環境や養育体制にも慣れ、落ちついて生活している。また、今年度より定員を60名から50名に変更し、きめ細かい養育に努め、さらに家庭支援専門相談員の2名配置など子どもたちに寄り添った支援体制の充実が図られた。職員の人材育成や養育体制の見直しなどの将来的な課題も多いが、中・長期計画では2年後に分園型小規模グループケアが計画されており、様々な角度から課題改善に前向きなチャレンジ精神が旺盛な児童養護施設である。

◇特に評価が高い点

【法人事務局や各施設と連携した体制、仕組みの構築】

施設とは別に独立した形で法人事務局があり、人事管理や労務管理、各種情報の発信などが行われており、施設との連携体制も図れている。また、研修体系や内部監査体制、キャリアパスの仕組みなども法人全体での取り組みや施設間での協力体制も充実しており、本園においても園長のリーダーシップの下で適正な施設運営が行われている。

【小規模ユニットに対応できる体制の整備】

新任職員が一人で悩まないようにOJTの一環であり看護業界で取り入れられているプリセプター制度（マン・ツー・マン指導）を導入し、人材育成に向けた体制整備に力を入れている。また、新しい児童支援記録システムを導入し、タブレット等の活用により職員間での様々な情報がタイムリーに共有できるなど、小規模ユニットに即応できる体制の整備づくりに積極的に取り組んでいる。さらに、小規模化のメリットを生かし、子どもたちの進級進学なども含めて、一般家庭と遜色ない手厚い支援体制づくりに努めている。

【つなぎに配慮した支援体制】

子どもたちの半数以上が、同法人の隣接した乳児院からの措置変更であるため、子どもたちの成育歴や健康状態、生活の様子など細部に渡る引継ぎが徹底されている。また、乳児院職員との定期的な情報交換の場を設けるなど、施設が変わっても一貫した養育ができるよう「つなぎ」を大切にし、子どもたちの継続した育ちに配慮した支援体制にある。

【保護者への働きかけ】

今年度より家庭支援専門相談員を2名配置し、保護者との面談、行事の連絡など保護者との交流の回数を増やし、家庭復帰を前提とした子どもとの関係構築に努めている。学校や園の行事は年間予定表を渡して参加を促すと共に、行事が近づくと再度参加をお願いするなど、様々な環境下にいる保護者に対して丁寧な対応と、きめ細かな取り組みが見られる。今年の七五三には複数の保護者が同伴して参拝するなど、保護者へのアプローチの成果もみられるようになってきている。子どもへの養育体制の整備に加えて、保護者への働きかけなど将来を視野に入れた対応に努めている。

◇改善を要する点

【マニュアルの見直しや整備に向けて】

全般的にマニュアルや手順書類に関する整備が十分とは言えない状況である。支援の標準的な実施方法などのマニュアルは存在するものの、使い勝手や内容的には課題も多く、職員が共通認識を持って一定水準の養育・支援を行うためにも、定期的に見直しを行い、全ての職員がスタンダードな養育・支援が提供できるよう努められたい。

【リスクマネジメント体制の整備に向けて】

あらゆる事態を想定したリスクマネジメント体制や仕組みが十分ではない。まずは、マニュアルの見直しを検討され、突発的な対応への備えと共に予防的措置と事後的措置の両面におけるリスクマネジメント体制を整備されたい。

【ワーク・ライフ・バランスへの配慮に向けて】

24時間子どもたちを養育しているため、変則的な勤務体制や間接業務により超過勤務が発生するのは理解できるが、ワーク・ライフ・バランスへの配慮も同時に検討され、職員処遇の向上により長く勤められる職員育成に努められたい。

【法人としてのトータルな人材育成に向けて】

法人の人事異動や退職等により経験値の少ない職員が過半数を占めているため、プリセプター制度などを活用し人材育成に努めているが、ある程度の成果が現れるまでには一定期間を要する。人材の育成や定着など、法人を巻き込んで検討され子どもたちに必要な人的環境の整備に期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の第三者評価では、施設が日頃取り組んでいる点を高く評価いただき、また、できていない点を丁寧に洗い出さしてもらったと思う。

改善を要する点にあるようにマニュアルや手順書類の整備は十分ではなく、定期的な見直しも遅れているため、早急に整備し、その時にマッチした見直しも行っていきたい。

また、リスクマネジメントについても、障害児者施設ほどの危機感はない。行動範囲の広い子どもたちであるので、より危険察知については注意を払っていききたい。

ワーク・ライフ・バランスについては、どの児童養護施設においても課題となっているが、職員がより長く勤められるよう、メンタル的な支援、人的配置の増強など気を配っていききたい。

⑨第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】	
法人理念である「地域の中でいきいきと生活するために」を受け、施設理念である「子どもの最善の利益のために」が確立され、施設内の資料、広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に明記されている。また、基本方針は、養護の方向性が示され、職員の行動規範となり職員に周知されている。保護者への周知については施設の機能上制限があるが、入園のしおりなどに明記され周知に努めている。ただし、子どもたちへの周知に向けた取り組みは十分とは言えない。今後は、子どもたちにも分かり易い資料作成等を検討され、周知されることを望みたい。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】	
県の児童福祉施設長会議や東三河の児童福祉施設長会への参加により、施設運営に必要な情報収集に努めている。また、定期的に施設入退所の年齢別人数や入所経緯を分析し、今後の経営環境や課題を把握し分析にも努め、課題等については全体会議で職員に周知され、事業計画に反映させている。さらに、法人事務局から発信される各種情報や動向などに対しても適宜対応するなど、経営環境の把握に努めている。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【コメント】	
施設は小規模ユニット化となり3年が経過し、今年度から各ユニットに幼児が入る新体制となった。職員の業務量が増えたこともあり、職員の定着と過重労働の削減が現在の大きな経営的課題となっている。課題改善に向けた取り組みを模索中であるが、具体的な改善策の提案までは至っていない。今後は、ボトムアップによる改善対策も検討され、職員全体での解決・改善への取り組みに期待したい。	

3 事業計画の策定

		第三者 評価結果
(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】		
中・長期計画には地域での分園型小規模グループケアの計画が策定されており、施設で地域小規模担当委員会を設置し、他の児童養護施設の見学に出向いたり、財務分析に取り組まれている。ただ、半数近くの職員が勤務年数3年未満であるため、経験値の少ない職員の定着と育成が課題となっている。今後は、分園型小規模グループケア開始に必要な正規職員の定着と人材育成等も課題として検討され、ソフト面も含めた中・長期計画策定に期待したい。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【コメント】		
中・長期計画を踏まえた単年度計画は、年度初めに「事業指針」として職員に周知されている。今年度より、児童定員数を60名から50名に減員し、一つの生活単位に多くの職員を配置するなど、子どもたちに寄り添った支援体制への計画が策定されている。今後は、職員定着、育成に関しての具体的な取り組みも検討されたい。また、中間での実施状況の振り返りができるような機会を設定され、ワーク・ライフ・バランスにも配慮した事業計画策定に期待したい。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	
【コメント】		
事業計画は、主任クラス以上の職員で意見を集約し、主務者会・運営会議などで協議が行われた後、年度初めの全体会議で職員に周知している。また、事業計画の評価、見直しも行われているが、事業計画の内容を全職員が理解しているとは言い難い。今後は、事業計画の内容について、職員一人ひとりが理解できるように、周知の方法や頻度についても検討されたい。		

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画の子どもへの周知は、子どもの休みなどを利用して家庭支援専門相談員が、子どもたちに理解できる範囲で説明をしている。施設の特性上、保護者については入所時や面談時の説明に努め、施設の機関誌「わかくき通信」に掲載するなどの方法で周知に努めている。今後は、面談室、掲示板に計画のポイントを掲示されるなどより多くの周知に期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に見直ししている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

施設では、毎年の自己評価及び定期的な第三者評価受審により、養育や支援の振り返りを行っている。また、第三者評価委員会では評価結果を分析し、課題等を検討している。さらに、月に一回、各ユニットごとに養育・支援の質の向上に向けた会議を開き、課題について検討はされているが、振り返りや改善までには至っていない。今後は、第三者評価委員会を中心に、各ユニットごとの課題について、組織的に分析され改善までの取り組みにつなげられたい。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

第三者評価委員会が第三者評価結果を分析し、課題に対しては職員全体で共有ができています。ただ、小規模ユニット化になり、各ユニットが課題に対してどこまで取り組んでいるのかなどの自己分析・診断には温度差がみられる。今後は、改善に向けた取り組みをチェックする仕組みを検討されるなど、改善の進捗状況を確認され、段階的に解決に向かう整備にも取り組まれます。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	<p>10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
【コメント】		
施設長は、理念や基本方針をもとに、施設が進むべき方向を明確にし職員への周知に努めている。また、職務分掌において、施設長の役割や職務内容が明文化されており、職員にも周知されている。さらに、年度初めには施設内の機関誌「わかさ通信」において、方針や取り組みなどについての所信表明を掲載している。		
②	<p>11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
【コメント】		
施設長は、全国の児童養護施設長会や中部地区の研修会等に参加し、遵守すべき法令等の把握、理解に努めている。また、法人事務局から発信される法令等の情報についても、職員への周知や適切な対応を図っている。施設においては、毎年度の事業指針に遵守すべき法令等の中から重視すべきものを取り上げ、啓発している。今年度は「子どもの権利擁護」「施設内虐待」等について、職員共通の理解に努めている。ただ、職員間では認識に温度差がみられる。今後は、園内研修等により職員共通の理解・浸透に向けた取り組みを検討されたい。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	<p>12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
【コメント】		
施設長は、日頃から子どもたち一人ひとりのコミュニケーションを深めることを目的に各ユニットに足を運び、子どもたちの目線で養育・支援上の課題の把握に努めている。また、日々の児童記録に目を通して、子どもたち一人ひとりの心身の状態把握にも努めている。さらに、担当職員とのコミュニケーションを図り、職員の思いや支援上の検討課題などについても、的確に対応されている。各ユニットで改善が必要とされる案件については、主務者会議での検討を経て、全体会議で協議するなど、全職員へ周知されている。		

②	<p>13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	b
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
<p>【コメント】</p> <p>今年度より業務の効率化と組織的な支援体制の充実を図るため、児童支援記録システムを刷新し、全ての職員が様々な情報を共有できるような体制を整備したところである。併せて、試験的ではあるがタブレットも導入し、タイムリーに記録や情報共有ができるような仕組みづくりに着手されている。今後、アセスメントシートと自立支援計画を連動させ、児童支援記録システムとリンクさせることも検討されている。将来的に計画されている分園型小規模グループケアの基盤づくりのためにも、速やかな実現に期待したい。</p>		

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(5種別共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	b
		<input type="checkbox"/>
<p>【コメント】</p> <p>職員採用や人事管理については、法人が総合的に取り組んでおり、正規職員や専門職員の適正配置の体制が整備されている。また、研修などを含めた人材育成に向けた取り組みも充実している。ただし、施設での退職職員も多く、短期間での職員の入れ替わりも頻繁である。今後は、職員定着に向けた取り組みやボトムアップでの意見収集にも取り組まれ、有効な対策等を検討されたい。</p>		
②	<p>15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	a
		<input type="checkbox"/>
<p>【コメント】</p> <p>法人として総合的な人事管理に関する仕組みが整備されており、「人事制度運用の手引き」には等級や役職ごとに法人として期待する役割が明記されている。また、人事考課制度や目標管理制度の運用、自己申告制度、キャリアパスなどの仕組みも整備されており、総合的な人事管理の仕組みが定まっている。</p>		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設では正規職員の定着に関する課題等に対し、非正規職員の採用などの対応も実施しているが、人手不足感はずみ有給休暇の取得率アップが課題となっている。児童養護施設としての特性上、不規則勤務も多くワーク・ライフ・バランスに配慮した取り組みは難しいとは思いますが、職員定着のためにも仕事と生活の調和に配慮した体制づくりや環境の整備を、施設だけでなく法人としても検討され、さらなる職員処遇向上に期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

法人として、人事考課制度が整備されており、職階層、等級、役職別に「期待される役割」が明記されている。また、施設長は年度末に職員と個別面談を実施し、一年の振り返りと翌年度の目標等の確認の機会を設けている。今後は、中間での個別面談の機会も検討され、設定した目標や進捗状況の確認、達成度合いの把握等にも期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

法人の「期待する職員像」が具体的に明示されており、職員に周知されている。また、施設として研修に対する方針が明確であり、職員の実務経験や経験年数を考慮した計画が策定されており、定期的に計画の評価と見直しも行われている。さらに、法人の研修委員会による研修計画は内容的にも充実しており、対象者や目的が具体的に設定されている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
(5種別共通)	<input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人の研修委員会による研修では、職階層ごとのキャリアパス研修やテーマ別研修、非常勤職員の研修など全ての職員が参加できる体制が整備されている。施設としては、半数近くの職員が経験年数3年未満であることから、新任職員が仕事と職場にスムーズに馴染めるように、技術的な指導とメンタル面のサポートを行うプリセプター制度（マン・ツー・マン指導）を導入している。また、研修後の復命書には施設長のコメント、アドバイスも添えられている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

実習生受け入れのマニュアルが策定され、実習担当職員による事前説明がされるなど、手順や仕組みは整備されている。ただ、すべての職員がマニュアルの内容等を把握しているとは言い切れず、実習生への対応や質問への回答など職員間の温度差もみられる。今後は、実習生の受け入れや対応についての共通理解に向けた取り組みにも期待したい。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人のホームページには、理念や基本方針、養育・支援の内容、決算関係の情報などが適切に公開されている。また、定期的に発行している機関紙「わかき通信」やトピックスなどがタイムリーにアップされており、生活の様子や行事、寄付の状況など最新情報がわかるようになっている。苦情解決、第三者評価結果についても公表されている。

第三者
評価結果

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人内には内部監査委員会が設置されており、法人内各施設の運営面や経理面などを細かくチェックする仕組みが整備されており、最終的には改善報告まで提出するような体制となっている。また、税理士法人による外部監査や監事監査、法人事務局など複数回のチェック体制があり、公正で透明性の高い運営が行われている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちが地域との交流を通じ日々の生活が楽しめるよう、地域のイベントへ積極的に参加したり職員が学校行事の音楽会、スポーツ大会などの参観を実施している。また、クラブチームや子ども会への参加など、地域の人々と協力をしながら、子どもたちが様々な経験を通じて成長をしていける環境作りに努めている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

毎週、定期的に劇や創作活動、絵本の読み聞かせ、学習指導など多くのボランティアを積極的に受け入れて、子どもたちとの交流を図っている。ボランティア担当職員を配置し、事前説明を行うなど受け入れ体制が整備されている。また、ボランティアと子どもたちとの継続的な関わりや交流が図れるように、一人ひとりの特性や状況が共有できるようなシステムの導入を検討するなど、積極的にボランティア活動を支援している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員が中心となり、児童相談所や行政機関などの関係機関との会議に参加し適切な連携体制にある。また、担当職員は幼稚園、学校、病院などと情報の共有や共通理解を図り適切な支援体制づくりに努めている。今後は、施設として活用できる地域の社会資源（関係機関・団体等）をリスト化して、職員間での共有にも努められたい。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

地域からの多数の子育て相談に対して、各関係機関と連携を図りながらそれぞれの家庭状況に応じた支援方法や情報提供に努めるなど、養育の相談窓口としての役割を果たしている。また、法人には地域貢献に関する専門の委員会が設置されており、地域との交流を図りながらニーズの把握に努めている。今後は、地域に向けて施設が持つ専門的な知識や情報を提供できるような取り組みに期待したい。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

法人には、災害時における地域の避難場所としての役割や機能が整備されている。また、職員配置に限りがある中で、関係機関と連携を図りながら可能な限り一時保護等の依頼を受けるなど、地域の子どもの支援を行っている。さらに、退所児童への食事提供の機会としてとして「子ども食堂」を行っている。今後は、地域住民の意向を把握され、福祉ニーズに基づいた取り組みが実施できるよう検討されたい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施
1 子ども本位の養育・支援

		第三者 評価結果
(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【コメント】 新人研修や職員会議の際に運営ハンドブックや事業指針を用いて、施設理念や基本方針の説明を実施し、子どもを尊重した支援について共通した理解促進に努めている。また、今年度から新人職員に対してプリセプター制度（マン・ツー・マン指導）を導入し、子どもの主体性や基本的人権のあり方を日々の実践を通して学ぶ機会としている。今後は、子どもの年齢や障害などに応じた支援マニュアルの作成を検討され、子どもを主体とした支援体制のさらなる充実に期待したい。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	
【コメント】 幼児以外は個室が提供され、子どもがそれぞれ一人になれる時間や空間が確保されている。部屋への入室や各ホームへ出入りする際は必ず声をかけ、集団生活の中でもプライバシーへの配慮に努めている。また、子どもたちのプライバシーについて職員研修を実施したり、ホーム会議で話し合われているが、職員間での認識には温度差がみられる。今後は「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」などを活用したり、プライバシー保護に配慮した養育・支援について、職員間で共通した認識が持てるよう検討されたい。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○	
【コメント】 入所予定の子どもと保護者には事前に施設見学を勧め、施設やホームの雰囲気、暮らしぶりを見てもらおうようにしている。また、入所の際には入園のしおりやパンフレットを用いて、子どもと保護者に施設での生活や日課、集団生活上の決まりなどの説明を行っている。さらに、入所の経緯や子どもと保護者の関係、心身状態に応じて、時間をかけてゆっくりと話し合う体制が整っている。		

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

定員の約半数が同法人の乳児院からの措置変更というメリットを生かし、これまでの成育歴や生活の経過記録などの引継ぎが密に行われている。また、入所の際には、家庭支援専門相談員2名が対応にあたり、子どもや保護者の意向を的確に聞き取り、生活環境が変わることでの不安を極力取り除くような配慮をしている。さらに、保護者には子どもの既往歴や予防接種、通院先、理美容など細かな状況や意向を確認し、意向に応じた対応に努めている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員とホーム担当職員で相談をしながら、子どもたちの年齢や状況、保護者の様子に応じたタイミングを見計らい、児童相談所と連携を図り家庭への移行アプローチをすすめている。また、退所後も卒園生や保護者からの電話相談に対応をするなど、継続的な支援に取り組んでいる。アフターケアについての支援記録が十分ではないため、職員間での情報共有と周知が図れるような記録作成に期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちが主体となり、毎月定期的に各ホーム毎で会議を設け、日常生活上での改善を希望する点や各自の意見、意向を挙げる機会としている。また、担当職員は会議へ参加し子どもたちの思いを把握したり、毎月聞き取りシートを活用しながら、進路や退所後についての要望を確認する機会も設けている。ただし、子どもたちの意見や思いを吸い上げ、検討し支援に繋げるまでに時間を要したり、実践できていないこともあるようなので、実践に繋げていく仕組みや体制の整備に期待したい。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

法人による苦情解決の仕組み・体制が整備され、保護者に対しては、入所時に第三者委員の役割等を含め、その対応について説明している。苦情があった場合は、施設としての対応や解決結果等を法人のホームページ上で公開している。子どもからの意見、意向については、定期的なホーム会議で要望として取り上げ、改善・対処等につなげている。今後は、苦情、意見、要望等を記入する用紙の配布やアンケート調査の実施など、積極的に意向を把握する取り組みに期待したい。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

今年度より家庭支援専門相談員を2名配置することで、子どもたちとの個別面談の回数を増やし、加えて日頃よりホーム担当職員、心理セラピスト、調理員など全ての職員が子どもたちと関わる機会を設けるなど、相談しやすい環境を整備している。相談をする場が多くあることで、子どもたちも安心して意見が述べることができている。今後は、施設職員に相談しにくい内容でも、外部を含めて複数の相談方法が用意されている事を子どもたちに周知され、子どもたちが一人で問題を抱え込まないよう努められたい。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

家庭支援専門相談員や心理セラピストとの面談、さらに子どもたちが主体となって開催する各ホーム会議などで子どもの相談や意向を把握し、それを職員間で共有をする体制ができている。ただし、吸い上げた意向や思いを支援につなげていく検討の機会や記録の方法、改善に繋げるまでの手順が曖昧になっているのが現状である。今後は手順書やマニュアルを整備され、意向が支援に繋げられる体制整備に期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
【コメント】 日常生活で事故が発生した場合は、アクシデントシートに状況等を記録し職員に周知している。ただし、発生した事故に対しての検討や共有が十分にされていないのが実情である。また、施設に危機管理マニュアルはあるが、職員間での周知が徹底されていないことも課題である。今後は専門の委員会などを設置し、定期的に事故の予防策を講じると共に、発生事故に対する分析・検討など総合的なリスクマネジメント体制の整備が望まれる。		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
【コメント】 施設に保健給食委員会が設置されており、毎月会議を実施してその時期に添った感染症対策や日々の衛生面についての話し合いを行っている。感染症や怪我のマニュアルはあるものの、定期的に見直しや差し替えがされていないため、今後は実情に即した見直しを検討され、分かりやすく、実際に活用ができるようなマニュアル作成に期待したい。		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
【コメント】 毎月定期的に日中または夜間を想定した災害時の避難訓練を実施している。火災・地震発生時のマニュアルが整備され、また防災管理組織や防災対策班などを編成し、子どもの避難場所や安全確保、法人内での連携の取り方も職員間で共有ができています。さらに定期的に備蓄品も確認するなど、日ごろから災害への意識が薄れないように子どもたちと一緒に取り組んでいる。		

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	
【コメント】		
施設の事業指針に養育・支援の標準的な実施方法や子どもの権利擁護、プライバシーの保護なども明文化され支援の基軸が確立されている。今後は、職員が具体的にどのように実施ができているのかを確認する仕組みを整備され、各職員の対応に差が生じないような体制の整備に期待したい。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	
【コメント】		
各ホームの会議で現状の支援についての課題等の話し合いをしているが、標準的な支援の実施方法については曖昧な点も見られるため、現場からは実情に沿った標準的なマニュアルの作り直しの声も聞かれている。今後は子どもたちの状況や生活環境に応じた適切な支援が提供できるように検討され、見直しや改善に向けた取り組みに期待したい。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○
【コメント】		
毎年、年度の変わり目に家庭支援専門相談員や各ホーム担当職員が、児童相談所の福祉司と情報共有を行いアセスメントを実施している。自立支援計画作成にあたっては、子どもと保護者から、施設で望む生活や将来に向けての思いを聞きながら目標などを確認し、意向が計画に繋がるように努めている。また発達障害がある子どもや困難事例については、専門職の意見を取り入れて個別の状況に合わせて計画を策定している。今後は、計画を策定するまでの手順書の作成を検討されたい。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりで養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

各ホームの担当職員が6か月ごとに会議を開催し、自立支援計画の目標に対する評価と見直しを行っている。また、子どもの状況が緊急に変化した際は、その都度計画の見直しを行うなど、各ホームの関係職員への周知はされている。今後は、緊急に計画を見直し・変更する際の仕組みの確立と手順についても明文化されることを期待したい。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

今年の5月より新しい児童支援記録システムを導入し、入力効率性や使い勝手などが強化され、細かいカテゴリ一別に子ども一人ひとりの情報が記録できるようになった。また、園長や副園長、家庭支援専門相談員、調理員などは記録システムの入ったタブレットを所持しており、タイムリーで児童観察記録が職員と共有できる体制が確立されている。現在、児童支援記録システムは整備段階ではあるが、今後、職員間で記録内容等の差異が生じないための研修や工夫などが望まれる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報に関する記録の保管・保存・破棄については、規程に沿って適切に管理されている。また、記録管理の責任者を園長とし、パソコンでのIDパスワードによる書類管理や書庫での保管資料なども適切な管理体制が整備されている。毎年職員の異動や入れ替わりがあり各職員の認識度合いも一様ではないため、定期的な研修や教育の機会を検討されたい。

内容評価基準（25項目）□

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○
【コメント】		
子どもの権利擁護に関する規程は職員全員に配布され、職員の理解が図られている。権利侵害の早期発見のために、毎月、担当者がチェック表をもとに聴き取りを目的とした子どもとの個人面談を行い、問題があった場合は職員会の場で提起し検討している。また、日常の子どもとのかかわりや個別面談を通じて、実践している支援が子どもの最善の利益となっているのか、各種会議の中でも話し合われている。		
(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○
【コメント】		
自他の権利についてはそれぞれの職員が日常生活の中で、子どもたちに伝えながら理解を深めるような取り組みが実施されている。入所時には権利ノートが配られているが、子どもの年齢・発達に応じた活用が十分とは言えない点もある。今後は、職員一人ひとりが継続的に、子どもの権利について考え学ぶ機会を検討されると共に、権利ノートを補足する施設独自の資料等の活用により、子どもたちが権利を正しく理解していく取り組みに期待したい。		
(3) 生き立ちを振り返る取組		
①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	
【コメント】		
生き立ち等の説明は、伝える時期、伝え方を児童相談所の福祉司と検討を重ねるなど慎重に進めている。また、告知した際のダメージ等は、心理員が心理チェック等を行い、子どもの変容へのアフターフォローも大切に考えている。子ども一人ひとりのアルバムは、子どもの近くにありいつでも見ることができるようになっている。ただし、生き立ちの整理や振り返りの取り組みについて、マニュアル等の明文化はされていない。ホーム職員の異動などもあるため、成長の過程が途切れのないような継続的支援に期待したい。		

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	

【コメント】

子どもに対する職員の不適切な対応防止については、職員会議等で園長が職員へ説明、周知しており、就業規則にも処分の規定が設けられている。日頃から職員同士で不適切な対応について確認することはあるが、子どもへの具体的な通報・相談のシステムなどの学習の機会、周知が十分とは言えない。今後は、掲示や定期的に子どもたちに届け出や通報制度などについて伝え、子どもたちの理解に向けて努められたい。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

子どもによる「自治会」を定期的開催し、子どもたちが生活上のルールを検討し、ホームごとに職員と一緒に作成したり、目標を定めるなどの取り組みが行われている。また、金銭の使い方、管理については施設での一定のルールの中で支援を行い、子どもたちの金銭感覚を養っている。余暇の過ごし方についても、アンケートなどを基に子どもたちの意向を尊重する体制が整っている。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

一時保護や乳児院からの入所となる子どもが多く、緊急入所は少ないこともあり、入所が決まったホームでは子どもの情報を参考に、子どもが安心して生活できるような受け入れ体制を整え、迎え入れている。入所の際は子どもに寄り添い、必ず「待っていたよ」という言葉をかけ、温かく迎えるようにしている。退所後の継続的支援については、退所後に来園する子どもとの交流程度だが、今後は2名配置されている家庭支援専門相談員による退所後支援体制の確立に期待したい。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

大学進学実績や大学進学希望者が少ない現状もあるが、次年度の希望者を筆頭に今後の大学進学者を増やすことや、目標や希望に向かって生活していけるような支援体制を施設の重点目標としている。副園長が、家庭支援専門相談員を兼務しており、退所者からの相談や状況把握も2名体制となったことで、対応に応じやすい体制となった。今後はアフターケア計画書や記録の整備、グリーンホーム(退所児童支援室)の効果的な活用など、より積極的なアフターケアに期待したい。また、実効性の高いリービングケア体制にも期待したい。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

担当職員は、子どもとの個別面接なども含めて一対一で話しをする機会を作っている。また、心理セラピーと連携し、日常的に子どもに寄り添い共に課題に向かう姿勢を基本に、養育・支援に努めている。子ども一人ひとりの背景や特性などについては、児童相談所からの情報を基に職員周知に努めているが、法人内での異動や退職により継続的支援に対するの難しさも感じており、今後も継続した支援や質の向上に向けた体制の構築に期待したい。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	

【コメント】

各ホームの職員の裁量権のもと、職員と子どもたちの話し合いで、一般家庭に近い日常的な柔軟な生活ルールとなっている。就寝時には大きい子どもが幼児を寝かしつけるような姿もみられるが、夜間、就学前の子どもたちが目覚めた時に、近くに職員が存在を感じられる状況とはなっていない場合もある。人員不足に起因する課題も含めて、子どもたちが安心感を感じることができるような体制や環境づくりに期待したい。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

各ユニットの独自性を活かし、職員と子どもと一緒に生活に取り組んでいけるような関係作りに努めている。子どもが自ら判断し行動できるように、学校の部活動や地域のスポーツクラブへの参加など、様々な社会参加の機会を活用した支援が行われている。指示や注意等に関して、職員の経験値によってばらつきがでないよう、支援の視点、方法などが共通理解され実践できる体制作りに期待したい。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子どもたちには園庭やホールなどが開放されており、友達と一緒に遊ぶことができる場所のひとつとなっている。幼稚園就学前の子どもたちは、施設内で保育が実施されているが、年齢や発達の状況、課題に応じたプログラムの策定なども今後検討されたい。また、図書スペースの整備が進行中であり、年齢段階に合わせた図書や遊具なども期待したい。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

昨年度、施設のルールブックを子どもたちにも理解しやすいように改訂した。また、インターネットやSNSの危険性については、警察署員を講師に招いて学習の機会を持つなど、リスクを含めた必要な情報提供を行っている。子どもたちにとっては、被害・加害双方のリスクもあるため、定期的に新しい情報の提供などにも期待したい。地域との関わりについては、地域活動を推進したリスポーツクラブへの参加を進めている。今後も、社会性の習得に向けて積極的に地域に出る機会の設定を検討されたい。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

食事については、各ホームで炊飯し主食以外は厨房で調理し配膳している。調理員が各ホームのキッチン設備で天ぶらを揚げるなどの取り組みも行われている。お弁当をサンドイッチにするなど、子どものリクエストにも応える仕組みもある。パクチーやホッケの開きなどもメニューに取り入れ、いろいろな食材に触れる工夫がされている。献立表には、〇〇さんのリクエストメニューと紹介されていたり、写真を使うなど子どもにわかりやすいものとなっている。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

衣服の選択については、子どもと一緒に出かけ、子どもの趣味趣向を尊重しながら購入しており、子どもたちは大切に管理、着用することができている。中・高生の制服や七五三用の衣服などは、定期的にクリーニングされ適切な保管がされている。原則中学生以上は洗濯や管理を自分たちで行っている。また、整理の方法やアイロンがけ等も覚えてもらう意味合いもあり、子どもたちの見えるところで職員が行うなど、間接的な支援も行っている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

生活の基本の場となる居室は、小規模グループケア体制後は原則個室が提供され、個人のスペースが確保されている。また、破損した箇所の修理も迅速にされている。また、従来のリース寝具をやめ、個別の寝具が用意され布団干しやシーツ交換もこまめに行なっている。今後は子どもたちが食堂やリビングなどの共有スペースの整理整頓が習慣化できるよう、職員が共通理解のもとで取り組む支援体制に期待したい。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

医療機関との連携については、嘱託医による月に1度の医療相談が行われており、感染症の流行の情報も得ている。薬品等は鍵のかかるところで保管し、服薬については職員が子どもの服用を目視で確認する体制となっている。今後は、現在ある感染症防止マニュアルを基に、日々更新される最新の情報取得に向けた研修会などの検討も望みたい。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

子どもに対する研修会は、CAP（子どもへの暴力防止プログラム）等の外部講師を招いた研修が継続的に行われていたが、今年度は今のところ未実施である。また、職員の知識習得のための研修として、昨年度は性の問題を含めた社会情報を取り上げ行われた。今後は、子どもに命の尊さや性について学んでもらうためにも、大人として正しく伝えられるよう年齢に応じたカリキュラムの作成等検討されたい。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

緊急時の対応、児童の問題行動に対するマニュアルは作成されているが、子どもの暴力や不適応行動などの事例が少ないこともあり、活用の頻度は低い。現状では、職員の経験に基づいた対応で大きな支障はないが、新任職員でも対応できるようにマニュアルの整備を検討されたい。また、問題となる行動そのものだけでなく背景や状況に即した支援方法など、職員間での共通認識できる体制の構築に期待したい。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの問題となる行動に関しては、行動の観察、記録を行い、誘因や人的・物的環境との因果関係を分析しながら適切に対応している。子ども同士の威圧的な行為や圧力に対しては、行為の表面だけでなく、子どもが抱える背景や心因にもしっかり目を向けている。施設内にはクールダウンのための居室もあり、職員はセラピストからのスーパーバイズを受け、助言を得られる環境も整えられている。今後は、5つのユニットに分かれて生活しているため、誰がどのように対応するかなど、職員間の認識方法や協力体制の強化が望まれる。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

外部のセラピストによる個別心理ケアと共に、体操、リトミックやアートなどを通じたセラピーを行っている。また、セラピストによる職員へのスーパービジョン体制も整備されている。自立支援計画作成の際は、担当職員へ心理的側面からの見立てや説明など、間接的に関与している。職員間の連携強化が課題とされており、今後は、課題に向けた取り組みと共に、保護者に対する定期的な助言や心理的支援の強化も検討されたい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

忘れ物や宿題については、確認表という仕組みにより子どもたち一人ひとりに応じた支援が行われている。通塾や学習ボランティアによる学習支援を通して学習意欲を高め、基本的な学力を身につけていくように努めている。また、学校生活の様子や学力等についての情報を担任と共有し、子どもの共通理解や支援の連携を図っている。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

進路の決定は、本人の意向や希望を最優先に自己決定できるような体制にある。また、家庭支援専門相談員が中心となり、高校進学後に中退だけはさせないようなきめ細かな支援も行っている。専門学校、大学など進路の選択技を増やすことができるように、奨学金など経済的な支援に向けた仕組みの情報提供もしている。さらに、現在通信制高校に通わせるなど柔軟な取り組みもみられ、子どもの最善の利益を踏まえた対応となっている。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職場体験や職業実習は学校が中心となって取り組んでいる。施設としては社会経験の拡大に向けて、アルバイトを認め資格取得を奨励している。アルバイトについてはそれぞれの学校のルールに応じた形でやっている。アルバイト代の使い道は子どもと一緒に考えながら、主な用途は自立に向け貯金している。今後の課題として、子どもたちの進路決定に生かせるよう、地域の協力も得ながら職場体験や実習の場の積極的な開拓に期待したい。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもが参加する様々な行事や学校の保護者会等の予定を家族へ伝え、保護者の参加を促している。幼稚園や小学校の行事参加率も高く、職員の早めの声掛けが成果となって表れている。家庭支援専門相談員が中心となった保護者への支援体制が整備され、保護者の意向を把握しながら児童相談所と連絡を図りながら信頼関係の構築に努めている。現行の家庭訪問などの回数を、さらに増やすことも検討されており保護者との関係作りに努めている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に、児童相談所と連携を図り家庭復帰を視野に入れた面会、外出、外泊へと段階を踏んだ交流を進めている。今後は、施設の親子訓練室や、グリーンホーム（退所後児童支援ホーム）を有効に活用しながら、退所後を想定した親子関係の再構築に向けてたきめ細かな支援体制に期待したい。